

高山樗牛 かみやま 評論家、文學博士。明治四年一月十日京都創生社、

(二十五年十一月) 千回自殺(二七二一九三)。舊姓齋藤、本名林次郎。

別號・筆名、かみやま、九室生、懷古堂主人、懷古堂湖雪、林芥太、樗

牛子、樗牛散人、樗牛生、湖雪迂人、無名氏、白雲生、芳雪仙史、記

者(可太陽)、高樗牛、高山林治郎、高齋林長、默如來、R丁生等。

明治二十九年帝國大學文科大學哲學科卒。第一高等學校教授。在學中

から雜誌「帝國文學」、かみやま誌上で評論活動。日本主義の唱を

經く、ニーチエの影響下個人主義を鼓吹。短命下ら文名一世を風靡し

た。評論家齋藤野の人は實弟。「樗牛全集」全五卷(明治二十七年一

二九年博文館春陽堂)、かみやま「樗牛全集」全六卷(大正二年一五年博文館)、

改訂註釋「樗牛全集」全七卷(大正十四年一昭和八年博文館)刊。

著書「瀧口入道」(無記名、明治二十八年九月、二十九年春陽堂)、かみやま

「界文叢書」(内題提「世界文叢書」)明治二十一年一月十五日博文館

「帝國百科全書」(一)、かみやま「論理學」(明治二十一年九月十日博文館「帝

國百科全書」(一)、かみやま「時代管見」(明治二十一年十一月二十一日博文

館)、かみやま「釋迦」(明治二十二年一月十五日博文館「世界歴史譚」(一)、

「近世美學」(明治二十二年九月十五日博文館「帝國百科全書」(一)、

「昔の傳」(明治二十二年四月一日日本協會出版、同文館)、かみやま

「相國」(明治二十五年一月一日文武堂、博文館發賣「少年史譚」(一)、

高山樗牛小説原作「かみやま本流口入道」(明治二十九年四月二十日春陽堂)、

「かみやまの植」(種口一葉合著、大正四年一月二十日新潮社「代表

の名作選集」(一)、かみやま「高山樗牛美學名詞集」(賣文社編輯局編、大正二

年二月二十日春陽堂「かみやま内對美學名詞叢書」(一)、かみやま「樗牛警言集」(藤

- 岡凌也編、大正六年七月十五日録業社）、『少年の頭・上巻』（合著  
 ・小野誠治編、大正十四年四月二十日第一出版協會「少年少女文學叢  
 書」）、『瀧口入道』（昭和六年十月五日春陽堂「春陽堂文庫」）、  
 『高山の瀧口入道』外七篇』（各作選集刊行會編、昭和十年六月二十  
 日三社書店「各作選集」）、『高山の瀧口入道』人生讀本「春夏秋冬」（岡山務  
 編、昭和十一年十一月五日第一書房）、『瀧口入道』（昭和十二年八  
 月八日改造社「改造文庫」）、『瀧口入道』（昭和十二年十一月二十日博  
 岩波書店「岩波文庫」）、『世界文學史』（昭和十七年一月二十日博  
 文館「博文館文庫」）、『瀧口入道』（柳田泉校訂、昭和十九年一月  
 二十日聖紀書房「各作歴史文學」）、『瀧口入道』（復刊第一刷・昭  
 和二十一年四月二十日春陽堂「春陽堂文庫」）、『瀧口入道』（昭和  
 二十一年七月二十日秋原書店）、『瀧口入道』（昭和二十一年四月  
 二十日新潮社「新潮文庫」）、『瀧口入道』（杉浦靜解説、昭和二十  
 九年五月一日勉誠社「文學文庫・日本近代文學」）等。
- 文獻、樗牛會編『清見瀉』に於ける樗牛一附、樗牛會集「報告」（明治  
 二十八年十一月十九日樗牛會、東京堂書店發賣）、同『樗牛全集補遺  
 ・第一』附樗牛會集「報告」（明治二十九年十一月二十日樗牛會）、  
 『姉崎刺風  
 山川智應編』『高山樗牛と白蓮上人』（大正二年六月二十日博文館）、  
 赤木村半著『人及び藝術家としての高山樗牛』（大正七年一月十八日  
 新潮社「讀日本文學叢書」）、成田正毅編『高山樗牛冥想の松』  
 （昭和十七年二月一日宮城・冥想の松保存會）、高須芳次郎著『人と  
 高山樗牛』（昭和十八年四月十五日信成社）、淺野真著『樗牛と天  
 心』（昭和十八年四月二十日潮文閣「新偉人傳全集」）、ダイジエ大

ト・シリーズ刊行會編『瀧口入道一擲牛の人と作品』(昭和二十五年  
八月十五日ジープ社「ダイジエスト・シリーズ」)、秋山正春著『高  
山擲牛一擲の生涯と思想』(昭和二十一年十一月十日積文館)、『平  
塚と高山擲牛』(昭和二十四年十一月九日神奈川・平塚市教育委員  
會)等。